

名前 年 組

自然観察会「準スタッフ」の高校生鈴木蒼志さん

の魅力伝えたい

あきたの元気印



自然観察会でカナヘビの生態を説明する鈴木さん＝横手市増田町の真人山

横手市で開かれる子ども対象の自然観察会で高校生ながら「準スタッフ」として案内役を務め、参加者に生き物の生態などを伝えている。幼い頃から動植物に関心があり、図鑑を熟読したり、身の回りの□を探索したりして知識を深めてきた。旭小学校3年生の頃、同市増田町の真人山での自然観察会に初めて参加。主宰する元理科教員の酒井浩さん(67)の案内で散策し、コクワガタやヤマカガシ

といった生き物を夢中で観察した。市内で開かれる同様のイベントの常連になり、知識量や動植物を発見する勘の鋭さで、指導に当たるスタッフからも一目置かれるようになった。

6月21日に真人山で開かれた自然観察会でも、元理科教員らに交じって案内役を務めた。

※未就学児や小学生の参加者から「蒼志お兄さん」と慕われ、道中で見つけた植物や生き物の特徴を説明。捕まえたカナヘビを手に「尻尾が切れているのは外敵に襲われたときに『自切』するから。ネコとか動物に追われたのかもしれない」などと解説した。

同市の十文字地区交流センターで5月31日に開かれた「あきた里山サミット」では、森林管

理に携わる団体代表者らとともにシンポジウムに登壇。里山の自然観察会を通じて「人間も動植物も自然の中で支え合い、生かされていると感じるようになった」と語った。

小学校5年で空手を習い始め、この春に入学した横手高校では弓道部に所属する。学習内容も難しくなり、以前のように□と触れ合うまとまった時間は取れなくなってきた。それでも、市内で開かれる自然観察会にはできる限り参加し、運営を手伝いたいと考えている。将来は動物に関わる仕事に就くのが目標だ。

「自分の興味を否定せず、見守ってくれた家族や先生方に感謝している。身近な□の魅力伝える役割を担えたらうれしい」と話した。

※【未就学児】小学校に入学前の子ども
※【自切】トカゲなどが敵から身を守るために、尾など体の一部を切り離す行動

1 傍線部「一目置かれる」の意味として適切なものを、次の①～④から一つ選び、番号を書きましょう。

- ① 軽蔑される ② バカにされる ③ 尊敬される ④ なめられる

2 見出しと記事の□の部分に当てはまる2字の言葉を、記事から探して書きましょう。

--	--

3 『あきたの元気印』に取り上げられた高校生について、なるみさんは、次のように感想を書きました。□の部分に当てはまる言葉を、記事の中から指定された文字数で書きぬきましょう。

なるみさんの感想

この記事を読んで、自分の好きなことや関心を持ったことを8年間も続けている高校生がいることを初めて知りました。指導に当たる先生方に交じって観察会で ア：3字 を務めるくらい植物や生き物の知識を身につけているなんてすごいことです。あきた イ：2字 サミットでの「人間も動植物も自然の中で支え合い、 ウ：7字 と感じるようになった」という鈴木さんの発言がとても印象に残りました。また、鈴木さんには『好きこそものの上手なれ』という言葉がピッタリだと思いました。

ア

--	--	--

 イ

--	--

 ウ

--	--	--	--	--	--	--	--